

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

| 学位申請者 | 森 やす子【論文博士】 【人間発達科学専攻 平成16年度生】 (平成25年3月31日 単位修得退学) | 要 旨 |
|-------|--|---|
| 論文題目 | 高齢者のインターネット利用と社会関係 -ICT 第一世代に着目して- | <p>本研究は、成人期に至ってインターネット環境に出遭った1950年代以前出生コーホート（ICT第一世代）を対象とする半構造化インタビュー（男女18名）、及びWeb調査（男女835名）のデータにもとづき、高齢期の社会的ネットワークの形成や維持におけるICT利用の実態とその規定要因を探るとともに、その利用状況がかれらの人間関係満足度に及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。さらに、東京都区部及び都下の2地域で実施した社会実験により、ICTを活用した高齢者のコミュニケーション支援事業の可能性と効果を探ることも副次的な目的とした。</p> <p>具体的には、次のようなりサーチ・クエスチョンを設定した。①1950年代以前コーホートのインターネット利用を規定する要因は何か。②かれらのインターネット利用には、社会的ネットワークのどのようなセクターが影響するのか。③かれらの電子メールを利用したコミュニケーションに影響する要因は何か。またその種のコミュニケーションはかれらの人間関係満足度を高めるのか。④地域高齢者を対象とするコミュニケーション支援事業が孤立化防止などの効果を上げるためには、どのような環境条件を整える必要があるか。</p> |
| 審査委員 | (主査) 教授 藤崎 宏子 | <p>本研究の主要な知見及び知見として、次の3点が挙げられる。第1に、調査対象者たちのインターネット利用／非利用に影響する要因を、ジェンダー論及び生涯発達論の視角にもとづき、時代効果、ライフイベント効果、年齢効果の複合的な相互作用の帰結として析出することができた。とくに性別によるインターネット利用の差は大きく、それは主として職業キャリアの違いによるOA化、IC化との関わりの違いが作用しているものと推測された。第2に、調査対象者たちはICTを活用して新たな社会的ネットワークを構築するというより、従来からある関係性を維持・強化するためにICT(とくに電子メール)を利用していた。それゆえかれらのICT利用は、直接の対話や電話などの従来型のコミュニケーションに付加される形で機能しており、社会的ネットワークの各セクター・メンバーにおけるICTの普及度により利用状況が左右されていた。第3に、東京都の2地域で実施した社会実験では、高齢者でも容易に操作できるパーソナルコンピュータを用いたコミュニケーション支援事業(VoViT)の可能性を確認することができた。本システムの普及と孤立化防止などのための活用には、地域住民により担われるサポーターの協力が不可欠であり、その養成が望まれる。その際、サポーターには機器操作能力以上に情緒的な支援能力が問われることが確認された。</p> <p>本論文は、高齢者のインターネット利用という一つの事象を通して、新しいテクノロジーが受容されていく過程を生活者の視点から捉え返す斬新な試みとして高く評価できる。</p> |
| | 教授 平岡 公一 | |
| | 准教授 斎藤 悦子 | |
| | 教授 大森 正博 | |
| | 准教授 宮澤 仁 | |
| | | |